早稲平氏之系譜

へ13
2946
98

98
へ13特 3168
へ13特 2946 98
昭和九年十月一日

前ハ盛長私記有茲ハ亦景清漂泊日記有歟
曰狼狽ハ奚や對曰金毘羅樵江這入緑林の
語ハ曰君子ハ泰而不驕奢平家久ハ英雄豪
傑と呼邑景清も土の牢ハ入て土龍ハ等底以後世
胸鬼成者を指景清と云ふ遺遥院の御歌ハ
かげきよの西ハ秋の月名も世乃中ハ廣沢池
何ぞめんと　名も世の中ハ廣澤乃池水ハ
其方ハ顔を摸く見く　冊かゞ清さそ　百性の
る西と秋く秋の月　名も世の中ハ廣沢の池
七兵衛と中く　且羽捩　加さ祢てあをさとべ　三味線
文化二丑春　内新母禅

年号のさむらいのうぐさ七兵へかげはい
壽永三年三月廿一日さぬたのくふ
ハくるぐんのうりのたくらのようち
きけつのふるげとのみあうまぐ
関の海中よゆ一門ぐさのこ〜ぐで
じゆきしい〜ものつときくそのの
こうろうちぐれをのがれおしうの
あさをぬくりんとうるくく〜亀
江ゲ谷ふ九尺二寸のさるをうり
くれきこけ出どさむらい
くるとすとうるゆ〜〜ぐ
おのつのよいつ拾べ
てぐきとすちがひ弁
とりいてひの中せらく〜人
そのくふおぢの大日
坊ハねそうろくふ
きてあるし〜あこ出五
でうとひぐ〜いでハ
つうぎモ刀のてまくへ
こてきをけ出ど
なてく弥井ハ新々の
けむりとり一勇の
くくれでハつるぬ
ものとおりひきゆ
ぢんをたてぐめ中ふ
よしもいけもあんぐが
るけ出べりとでも直

けんぎ百つの師走年くん
源氏の代とるれべ
めぐちてられやきし
行をたくらようらくと
ゆくくのとで
ぢよくうるるゆ〜ひ
らでや竹のこぐさ
つくりるるとと
こーらくるとと
おぢくえいくうるき
のくーやを新やの
くぎをけづりて
とぢいとしてたぐるく
日をおそりける

大日坊いふきよふりの
るれべけさるでする
とるいけでも
できるに三郎
の中くせりで
おいのうげきよを
とるくあさりの
むきとで
いぢあぎる
といふふ
さるぐうそ
めちや

外郎賣虎屋藤吉

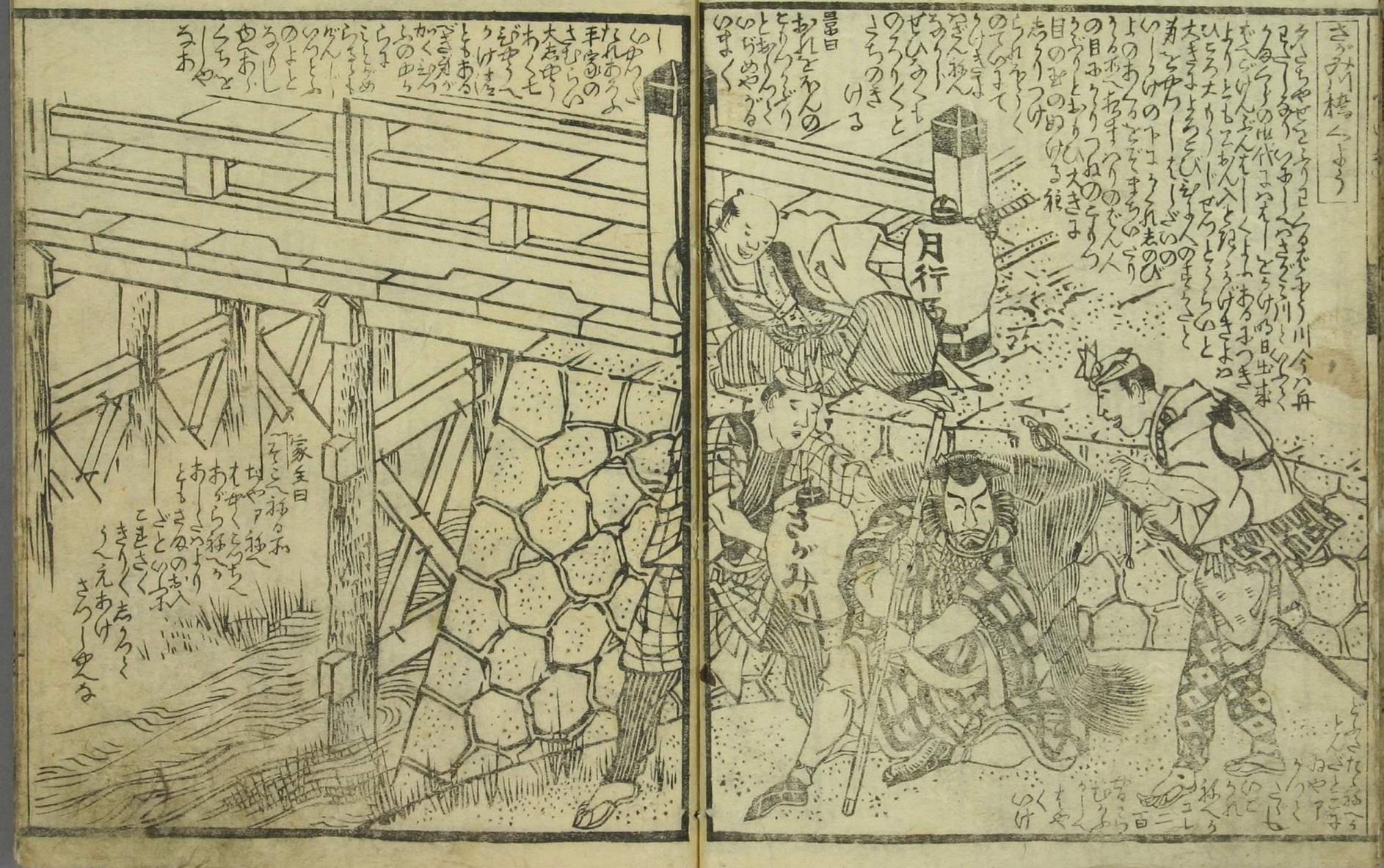
てくらく賣七ゑ
それとまんく
素買殺目より同十日迄
あらあきとりらくこよう
岡帳
鎌地善光寺
左史祖
於魚楽観音舞屋ま
正月十五日ゟ幕開
初春
吹取
トコヤ
トコヤ
トコヤ
トコヤ
浅川
美岸
山のゆきまつ
だやよるゆア

百人一首の七ゑ情

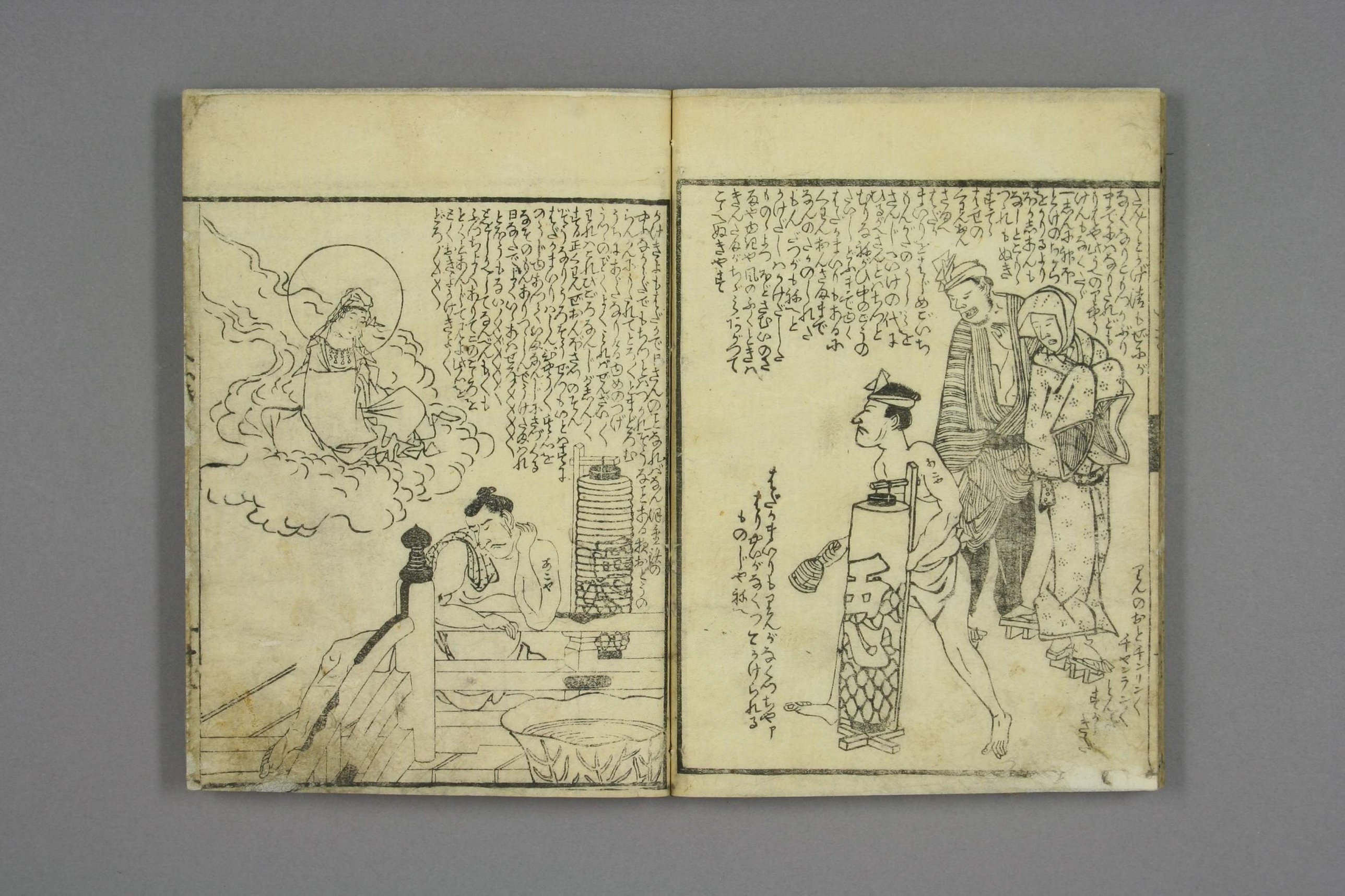
百性の七ゑ術

むどんのぎゆう

大佛くらべ


月行

えんくく
おやこん
しるこん
きんりのこん
けいこん
どうこん
ちつくく


あこや

十二